

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ

WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 水野民也

No.23 (1982~1983)

MANKIND IS ONE-
Build Bridges of Friendship
Throughout the World

人類はひとつ
世界中に友情の橋をかけよう
1982~83年度RI会長 向笠広次

第23回例会 昭和58年1月25日(火)晴

◇“我等の生業”

◇出席報告

会員 45名 出席 29名
出席率 64.44%

◇前回 1月18日(修正出席率)100% make up

深見君(1/18岐阜本巣), 浜口君(1/22守山),
古川君(1/17中), 加藤(大)君(1/21北), 久保
田君(1/24東), 黒須君(1/22守山), 成田君
(1/22東南), 杉山君(1/13瑞穂)

◇ビジター紹介 4名

◇ニコボックス

林君(1月ゴルフ会準優勝しました), 日下君
(本日卓話させていただきます)

◇三輪副幹事報告

1. 本日例会終了後, 理事役員会を行います
ので理事役員の方は2F橋の間にお集り下
さい。

◇水野(民)会長挨拶

先週公式訪問も終り, 肩の荷がおり, 後の半
年何とかの気分ひたっておりましたが, 新
RCであればこれからは本番と云わねばなり
ません。

公式訪問の時の各委員長からの報告を実施
するのはこれからです。6月まで現体制で頑
張ろうではありませんか。

地域のことでございますが, 2月20日には
千種・名東と合同で平和公園に於て, ジョギ
ング大会が行われます。Lionsが大々的に応
援をしておられますが, 私は名東の体協の関
係からあいさつに行き, 当日も現場に居りま
す。1月31日までに区役所等へお申込みがあ
ればとの事です。

多少個人的になりますが, 消防のカルタを
千種の消防協力会でつくる事となりました。
「ポンプ100より用心一つ」とか「雨は天から,
涙は目から, 火事はその身の油断から」とか

「兵隊さんお国を護る。私は火守る消防士」
等の文句ですが, 昭和8年に東山消防組でつ
くったものを複製をしてみたいと思って立案
中でございます。ご協力頂ければ幸いです。

又覚王山日泰寺の地鎮祭も1月8日に終り
来年の秋には, 立派な本堂がお目見えする事
と思います。東山も春になって参りますと,
3月中旬から5月中旬まで春祭り等が行われ
ます。

地域の事を申し上げ, 今日のごあいさつと
致します。

◇大隈ガバナーからの御手紙紹介

名古屋千種ロータリークラブ水野会長殿

「冠省 昨日は公式訪問にあたり, 種々御
配慮の程御礼申し上げます。創立間もないク
ラブとは思えない落ち着きと成長力をもって
おられ, 今後の新しいクラブのモデルになるよ
う期待しております。私も特に関心をもっ
て, その逞しい成長に御協力したく思ってお
ります。皆様によろしく。 敬具
大隈孝一」

◇講演

“書道あれこれ”

会員 黒野貞男 君



昭和58年, 新しい年
を迎え会員の皆様, ご
健祥何よりとお喜び申
上げます。

年の始めに年賀状が
沢山まいったことと存
じます。私のところにも
頂きましてありがと
うございます。これらの年賀状の中には毛筆
のものも数多くあり, 会員の皆様方の中に,
毛筆で書いてみたいと思ひ筆をとられた方,
思ったが……という方もおられることと存じ

ます。

また、年の初めには書初めが正月の行事の習わしとしてあります。書初めというのは古来1月2日に吉方に向けて、めでたい詩歌を書き祝う行事です。吉方は日本では朝日の昇る東方をいうこともあります。中国では南の方角をさしています。藤原定家が作歌する折、南の戸をあけ、部屋の真中に衣服を整えて端座し、南をはるかに見はらして歌を案じた『正徹物語』というのも吉方に向けてということとされます。

さて、書とは、と定義づけてみますと、

「書とは、文字を素材とした造型芸術である。」とか「文字を素材として、美的に表現した芸術である。」とかいいます。わかりやすくいえば、毛筆で文字を書くことでも言いかえることができます。こうした書を、

1. 見て楽しむ
2. 書いて楽しむ
3. 書に関する文房四宝を集めて楽しむ

ことができます。
まず、見る——鑑賞すること。これは床の間で拝見することから、美術館で見ることにいたるまで、よくわからないという言葉が聞かれます。そこで、読むより先に、見て感ずることが第一ですと申し上げたい。その上に読めるならばより深い鑑賞ができるというものです。次に書いて楽しむ。実は書くことは専門としてはある一つの苦しみでもあります。3番目に硯(端溪硯、歙州硯)を集めるとか、墨や印材(田黄、鶏血、広東緑)などを収集し、それらを通して書に親しむことは、書を楽しむことになるのです。

結婚の披露宴に招かれたり、叙勲の祝賀会の受付で毛筆で署名される機会が多いことと存じます。何とか上手に書こうと固くなられることもおありでしょう。そんな時には気楽に書いて下さい。この短冊は清水比庵先生のものですが、上手というより“いい字”ということができるものです。いい字——それは書道史に残る幾多の書の中には好みにあうものが必ずあることと思います。それを落書きするように気軽に稽古をして、自分のものとされ、その自分の書で署名をなさんと“いい字、いい署名”ができると思います。どうぞこれを機会に書に親しみ書に関心をお寄せいただき、“いい字の署名”をして下さることを念じてやみません。

“人生は夢の実現”

会員 日下貴博 君



今年の秋、ごつい大きな手で握手をしたばかりの強そうなニューリーダー、日本の政治を背負って立とうという大きな夢を持っている男、中川一郎氏の死は、人間、特に困難な

壁にぶつかった時の人間は、他からは想像出来ない程弱いものだと改めて感じさせられました。ところが一方、世の中には大きな夢を実現させてゆく人があります。そして夢が大きければ大きい程、それに立ちふさがる困難の壁も大きいのではないのでしょうか。しかしそんな時、その壁を乗り越えて行く大きな力を持った人、自分の生命の灯が燃えつきるまで夢を追い続けることの出来る人生、夢の実現に向けて挑戦し続ける時間の連続がその人の一生である様な人生。これこそが人間の生きざまだと思います。

ここで少し私のPRになって恐縮ですが、私は現在、三旺マンション、三旺ホームという商標の住宅メーカー、(株)三旺を経営しております。(株)三旺は今、資本金4億2千、売上高100億のローカル会社ですが、東西の大財閥であります三井や住友からも資本参加をしていただいております、将来は東西への進出もしたいと考えております。

現状の我が国に於ては、産業、文化、教育等、何一つとっても諸外国に遅れをとっているものは少ない訳です。その中で遅れをとっているものは「うさぎ小屋」と称される一般国民の住宅を始めとする人間の生活空間だけだと思えます。私の夢は、この住宅空間や店舗空間、その他の生活空間を「うさぎ小屋」から少しでも「紫宸殿」に造りかえることです。そしてその中に生活する人々が、少しでも明るい豊かな生き甲斐のある人生を送っていただける様、念じて止みません。最後にロータリーの皆様がいつまでも若々しく、「人生の夢」に向けて情熱あふれる人生を送られることをお祈りして、つたない私の話を終わらせていただきます。

◇次回例会(2月1日)

卓話“歯科医療事情”

会員 黒須 一夫 君

卓話“私とあじあ号”

会員 青山 敏郎 君

◇次々回例会(2/8)はフェイスサイドミーティングのため卓話はございません。